

## 「連合 2022 平和行動 in 長崎」派遣団報告

# 語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で核兵器廃絶と恒久平和を実現しよう！ ～平和ナガサキ集会に、全国から 1,115 名が参加～



挨拶する連合清水事務局長

え、そして時代を超えて、その愚かさを伝えていかなければならない」と挨拶があった。その後、田上長崎市長の来賓あいさつ、ITCU シャラン・バロウ書記長のビデオメッセージのほか、被爆者の訴えとして長崎平和推進協会 三瀬一朗さんの77年に渡る被爆体験の記憶を交えた講和があった。さらに連合福島派遣団は長崎原爆資料館も視察し、原爆被害の悲惨さと平和への思いを新たにしました。

翌、8月9日、長崎市への原爆投下から77年を迎え、平和公園で厳重な警備体制のもと「長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」が営まれた。田上長崎市長は平和宣言で「核兵器が存在する限りは使われる。なくすことが人類の未来を守る唯一の現実的な道だ。核兵器に頼らない方向へ進む議論こそ先導してほしい」と訴えた。11時2分には約1,600名の参列者が黙とう。被爆者代表の語り部、宮田隆さんは「平和への誓い」を読み上げ、ロシアによるウクライナ侵攻を非難し、多くの犠牲者に追悼の意を表した。



長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典の様子

8月8日、「連合 2022 平和ナガサキ集会」は、長崎県立総合体育館メインアリーナを会場にオンライン配信を併用しながら、全国から1,100名を超える参加者のもと3年ぶりに現地開催された。連合福島からは、派遣団として伊達地区連合 高橋誠一議長を団長に5名が参加した。

集会では、地元連合長崎の高藤会長の挨拶の後、犠牲者に対し黙とうを捧げた。連合清水秀行事務局長からは、「ロシアのウクライナ侵攻により、核兵器使用の危機が現実味を帯びている。我々は長崎から世界中に向けて核兵器の廃絶を訴



連合平和ナガサキ集会会場、原爆資料館前での派遣団

え、多くの犠牲者に追悼の意を表した。参加者からは、昨今の国際情勢により、改めて核兵器使用の可能性が高まっている。使用されれば多くの犠牲を生むだけでなく、77年たった今も苦しみは継続していることを実感し、改めて核兵器廃絶と平和への思いを強くした、との所管が寄せられた。

連日猛暑の中の行動ではありましたが、高橋団長の統率のもと、参加者が協力し一定の成果を上げられたことに感謝申し上げる。